休諸國物語圖繪 四

へ沈13
603
5

へ 13
603
巻 4

休諸國物語圖會巻四

一休和尚の出生の事

一休和尚の出生の事は、江戸の住人、佐々木氏、年月を経て、卵の内にて、ひとりの僧、門前へ来り、ひとりの子を、ひとりの僧、抱きとりて、ひとりの子を、ひとりの僧、抱きとりて、ひとりの子を、ひとりの僧、抱きとりて

ものとのまぢそぐやくこんぞふ金ねの事をも
うらまれて。こ日こ夜そでのうらぐのつりうや芳橋
法師ねしいくまうらるとさ。中の法師ものうめ。そつる
とときて和尚のいもふりめ。和尚仰らるゝは。四傍いろきさ
まろといひそてさ。こ日ろおふまうらうそへいづくうり
ろまをまろつぞとひつるとそ。色
次第とうろる。和尚ろ夜ものめて紙ろ縫ぐうき
とおしへくまへぐ。いろうぐ叶傍をぬろぐうるうり。所ほ
き事なり。おろうぐしうるをしく

○

汐見ものまんちく一紙ものくまくうろさ。ある夜ふうぎ
のうるとうくまくまくうる仰ものの紙ものと
ふこの。こ年ろおろ弘ものうきふ行
用ろをしぐ。一紙へ夢申ふかうゆやうもろ弘て維
ふなうろう。いろ歳日ろ地弘ろ四紙ものくまくぐ出

我命のうすうがく。叶寺へ仰へ事あふうくてぐ生く
ぐ。我りうろ四ぐんぐのぐかう国志の
ふくしうるうるうるまぐ。定めくきぐのぐを多くろ入る
事あるぐまぐ。行用志ものうるを志ろふうすけうまへと。
そのものひるすぐうて。なくくかうるんく夢ぐんあ。あ
やくうあを所。次の日ろんのめく地弘ぐうきうる。
志ろふきぐ一羽寺のうらへ死入ん。和尚四ぐんぐ叔
いうの夢ふろうきぐいぐうを。ぐうくろんを。彼の
いひくぐく行用ろ。やぐくかまの中へくてふをかく。
ぐあうる体ふりてなくうへうるへがうへうへくぐ
志ろうまぐもうぐ。力なくて出ろう。和尚叶きぐとれ
出して。その毒徒角仰て志ろとろうく体ろうまへば。
角仰なぐを流く。叶をとろひ紙ぐろくるくぐ
そづる。うぐきなくく事ものう

○
江戸にて作林寺とゝなる寺あり。此住持生質脇くしにて天
ぐりなりなるが。さの分ふびんなる事ありしを。ひそ
かにこひ。わく寺へよびとせ給んぐらせしが。此住持ちゝ
ゝくゝくゝく

みよう百姓とうづゝ耕作もなゝぎず。主人はうぢぎーて一人で切分きまずのゝ種ふ。やゝく彼の百姓うづふなり。彼きもうれとなげゝ。いゝ世ちんとひゝめゝとうつゝゝ中ゝ一人がゆやうハいゝふ百姓うまゝゝ。芝いわまりゝ長なる志ゝうふ。耕作のゝ名ゝまでもとゝゝまゝてん。彼ゝとゝゝ作りをんゝ志ゝうゝゝ主人ゝあゝゝとゝ世ちんゝ。ゝも死する命うゝゝゝ。世年と一先ゝうゝて。ゝ後いゝもゝなゝんゝゝゝゝいふゝゝゝゝゝゝ。この縁ゝうゝもゝ一ゝはゝゝゝゝ彼ゝを徳むゝふゝゝんゝゝ。なゝゝうれゝゝゝゝゝゝ。望文ふ知のゝものゝもゝゝゝ。ゝゝゝゝちんとゝゝゝゝのゝもなゝ。彼ゝゝ一体ゝゝふ彼ゝゝゝを。年のゝゝなゝゝゝも生ゝゝゝゝゝ。彼ゝゝゝゝゝゝ

又もまことうとてもきこえぬ一村の
のふぐ結ぐどくらやとり山
とうとうとうとうとつくふくれくまべ百姓どもかくこと半こそい中くく
とうとこと半こうひもようぐくこまべ。一体いやくこまこそよう。
そこ松ちをとうこげまと作りまと作りうえべ。いづもつくあらち
んとありてで。こふ古百姓のあづまどものまり合なきへ。倫
ずれもやづくこと命初もいづれが。そこ松なくして彼くこと
上くまだ。ふ来どのやらんあるく。やづくこと作ばる百姓の
ふくくくかくこと半ふうひもやまず。こくく人ぶのこてちつくんこの
まふ中でで知陸ばべくもまくく作くまくく一体と
このくり。一紙こまこてこと半ものとと上くまべされべ
ちをこをべけ作くでべ。かくこと半いくんとのこくもいくぐこと
無でもこうひく。そのらちる老ちくこくく。百姓くなくけ

和もお聞こはくらく漢後くうつの縁りけくしがまもふくうり
こをとおうくうし。永とうとうる化もの縁こと中。そのこる千半もも
おのく。おくひい縁紙もなりいおのくりこ夜りをあくとくこうつすも
りこ半こくばのつあくべ。とくくくいふるがあのくりこそ。人半こくこ
てくくうあくこふもひんもない半。たくひんよりあくうくまれども。けくう
ま縁後漢後のまりとくくこくくくこくくくこく

[illegible]

[illegible]

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出く家通ふてる。なをこのふる地獄あるやと作るまいへ及
さくくくに日ゝやぐらうとく為ずり半なるまこたぐ山神と
ゑんよ。和尚のいろく毛神まつく仏性日神と及ぐそなし
とのこまへ。又入乃中やうぎうの名と外くしぐとうの。
一休のいろく。神そ乃入福寺とやうとうとさこまま夫
ぎうくとてうせこうう。ぎ陰ち二乃出ぐうくう一休
おとむうもまんが為ふ為まうと。皆人やあつくる。あこまき
なうし半なうくう

○

あるとき一休庵にそこをいくあのびうぐこもりのう
なぐう。生来ちうひゝうるく者せしまつぐ。いくこやこ
ぐく。ちうへ為うくやうこうもんきこ。福井がうふ
ようもよくひ。ぎまくくむふとうぎ分まぐやうぐきて
卵付くよくひ。れをとけれ見んきさ一おうしと。風呂く
ふきこんぎ。おくるれいゆるくくとうあも

うせうくくうる。此間の次命ちう乃つまちうきん。かまうき
ぎくくむうとうとくふうせうこをゆうふ。ぐぐやぐて
福井ふく入ゝ。此乃ちう乃ゝ。ぐうこのいくむ
ぎうとうみくうせうぐう。ゆ人のこのやぐて。ふまふ
かうる毛ぎやうふ。ちくちやうくくとうくひくて
うちくくひくふくきふ。一休はくぐくくくくまひく。行
くの合点くうくんこのまく迎ぎくふうまい
くくくとちくくうう。ちう乃行乃もうーんおりひ生
ぐくと。うくんの半なぐいくくゆうもなくぐくく
うちるあ。ある人ぐうあぐりかまくうあくはくぐくく
ゆくくうまぐとうう。此人うぐくまうはくく。ある
日和尚のうくんひ中くるひ和尚ある夕ア風呂へ次命
ちう命とつまうせくまひ入きれくやうくひ中ひうんき
くそやうくいくうちう。ある人のあくくそ風呂へはく

そのいとしおとろくふうせいとそ思へ。あぢあの間へまうん。
そそ分い給ふ〳〵初りはぞゞやさう人のそうしそ。クヅア
うけうりい。ちうまぐ世ふい風呂とうそのも多く。うう共
よのもおわさふ。なんぞちくしやうしくふけば。うう共
あまさ〳〵とちくへうふう。さそくゆづしさうふう
ふうまやうと鬼実仕ん。さやうまうさ又きくうふいう
なる半ままそとやうそまぐ。一体そまふ注所ちが
ちくしやうくとしふ合点まわくず。性俗かりうう
書きそもなしまちくしやうというう〜づさ学えは。
ちく〜ちくしやうなるちうぐざりあぐ。結くがまちの
ちやうがあしと思なくんざるおろくうまちしし
こくくうとのうまぐ。けん人おうろうもとうく悪
くくうだう
ひれ皆田の浦こ須ゑ命とうあ永紙人あうる。たのの

うぐなくう。やくきくうまうまあ。一生がま独の澳
揖の拾をそうぐて。まの居ちくしそんざくくう
ふびすの加きの花さあそ。ふもぐうふるるくう。おの
づくうやくさうなまく。いくじうづさ半をあのくしと。
かさくうふうさあくそちらくやまぐふぶをあくまくさ
ようすがなうくうぐ。ほあく分まうくく形さ久。美よちくひ
なげく半かぐうなくさそあぐざふあくざぶ。ちくやセん
ちうやうぐまんをかうくこくる。せあくいうる紙ぐる牧
こく。後世のくぐんとうすけきとうあ形うう。一体風
きのり糸とうめくく。浦のうふ祝まりあくく。ぼ方の
結糸をたのくくてあくくまチふて。美よくうきとうて。衣
のすそふすぐうくうかやうあくまくきくのお果いが。
あくまをぢひとくふく。結とうの後世のくくくとあきそて
くまうまとうく。さくくの学恐こそぐくくうくくる。一体

ちびんこそ〳〵。行うち毒さ車うち降さうけわさせん
とそ。山ふかきこうもひ。そこ志の人拾てそふしんうまさく
死人と糸おとおはたゝめてそ。たゝそこ入こい繰をうけ
九を糸こうこさの也。此糸の波こうう人多ちさふこうく
志をあけうこうふのこうまふやう
山俵い志をえ糸糸俵ゝもあこまを豆俵ゝも
あこず。此いかこの糸又帝俵なり。江河ふ
志びんぐこうこのこなり。紅果を得を
唱このうひ和の唐ふぞつこ入多芝茶紅の引拳し
又一休宗間の唐ふあこせ〳〵こ。海ぐこへ豆出うひそこ
毎日つりをこはそふ魚紅ようて海のうるふ川牛ゝ又人牙の
俵逆おまを不津なる仕合うこそ。一休を一百のこ志へ
ようひ入ゝくふ志ん〳〵ふ志ん一休の日各こちふ学門を
すこそ紅牛をこ〳〵うこふや。我おいこ〳〵への祖師の志ふこの

俳家の学問とふはこう。志こそ志ば例うき車い仕ぐず。そこ〳〵
右の句を知ぐばえせんこそ絵いこうこうなり。恨るの
海老とはこうまふこ〳〵喰ふ魚をあこ〳〵と絵こを。一首の歌を
うこまを

いこ〳〵のこうこさ祖しい帰を郷し
ふいあこ〳〵〳〵魚をこ〳〵〳〵
こを〳〵。の俵こちふさ〳〵付。さこあふこうこを唐こを
こるこ〳〵の絵をこん〳〵。さこても志ふなる絵や。又牛こうる歌の
牛ふこうやと歩ぐ名。こを中ここの老俵あぐこうひ。右の祖
師の帰と郷牛こうこて。牛俵の志ふこなこうこて魚をこうこまこう
ん牛。物の志ふ〳〵〳〵鳥が水をのむこうひし新こう。ここ〳〵
牛俵いこの帰る和尚の名びつこ〳〵海こう〳〵。ん拾を志こう
しめ〳〵名こう。中こ〳〵乃こうき車やと知こを。一休少しも
ここ〳〵志をこもこんぼ。ここ〳〵牛俵の歌こうこん〳〵帰こ

ゆゑを尋しん相がてんいまわるまで。とれ人いまもまだ
老ゐるまもよまず。ろくおそい老ゐあるまで。老ゐるが所
為せお。門外のむく犬も所ろ千ざし。老ゐ三十ぬ所と
うけうろう。我おが祖達ゑ大師のいつしてゑ。ある時
紙ゐ多羅ゐ多の葉のひく。老ゐうやくあり墨と
さしげ。こ人の色ゑおんせひつ。んをうあさんとそ。かのく
ゆ玉玖宮とくまんやと同ひのひとさ。内見動んろ
この墨こ所ろうろう又あじとのゑひろふ。達ゑ大師ハ
七巻こそ一の乙宮なりうまど。ゆあを老宮ゑそ宮ふ
あうど。若光の珠まそ又なさ宮なんとそ。紙玉とゑげうう
うひうまべ。ゐ者おどろさ。かういとけうさ多ようてうざ
なる人ゑみとそ紙ゆ名を達ゑと名ゑるうこめい墨掲
多紙とゆせとうや。達ゑ大師ハ遊しゑ毎ごてえがき
ゑうるやうなる人ゑうとのゑ。ゐれハ所為ハ老ゐ

ようえうずと。一休ゑを紙ゑ紙老僧が天ゑの性さを見
ひのえゑ。老僧も人中まそ迷分らを赤面してやうれうゑ。
かるはまうをくやうれうう。ゆのうはいいてうとんゑさと
なさうのうう。生僧い実正帝ゑのゑびまわうしれん
根をまうのえう。一休ゑうゑうゑ曰。中くなんうう。老僧やさう
ゑの四んが紙ゑうあす。そを猫ゑかれん仙なう。いそ帝
あうごうくうう。ゑくゑむとあうをひそ。帝ゑのんゑ帝ゑうゑうゑ
凡人のゑううゑあうず。ゑう一休ゑ帝ゑふなうそ見
ど行ゑう。一休おゑもおうをどゑ。ゑくゑのうゑうなう事を
のうまえのう。樂ゑ帝ゑのんゑうう
紙うくうゑと宮ゑうう。ゑうくうゑをゑうけうきゑ宮ゑなうん。
一休さんうゑよ。ゑのうくゑゑ仏一休がんうなりやまひバ五僧
が帝ゑのんうなうゑうなうぐんゑまでとゑうくゑひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○ 爰ふ一休の時代に暁川新右衛門殿と云人あり久しく
御使者番を勤めしが一休の弟子なる事を
聞及び尋ねとなや伺ひ来る。一休の弟子なる事を
聞て乃ち対面し給へ。あるべき一休の
弟子尾へ呼び入れ。果の座敷に和尚
出給ひ。いかなる人ぞと問ひ給へば。いやいかにも
仕候御内の方伺ひまゐりて一休にあやかり
申度

なんぢがいづくの人ぞ
問ふれば答へぬ
ちくしゃいづくしゃ
いんとしての後ぞや
ちりてのあとはいづく
東にて行方一の竿
ちくしゃいづくしゃと問ふ

答曰 和尚と門弟
鶴ちかづく雲いらず
むかしきこう除る和尚
尾なし狐ぞ幻菌出家
気味野がらす
小川流して風吹き掛く

なんぢがいづくの人ぞ
達て尋ねば一おもなし

返歌

一掴もなさとなるまちまちまち
本来空の妙体うりうり

とかくさまざまで。一休の
堅川どのゝ尼公者うして夢ぜしまるゝ。さて四郎山
のゝ尼公一めと又仏法ゝ親面ゝ
和尚一めの仏法
して邪法一めの仏法
ちまたてい弘めるなるうりうりなるうり
志ゝも行ふも教るも
又問 尋ね尋ねて
しるのおのづすぐいをまゝ

紅葉こうもけしでくらいうねの玉

又同　色邪色々のんい
　　彩とはくく色てくもふちう黒く
　　はいくちなくてちとまい赤くくう

又同　春はくちいふ
　　よの中ぞくふくくとこして春てあるて

又同　仏はまいいおんはとくくはくんや
　　佛はちなんべのさくやくんの繁
　　絵くくく竹の竹くもずまのちう

と一くく同ふちう紫のちふ紅ようくくんべ。紅黄
ちとふふくくく中及くくくうくみさ活傷ふと新のく
ちひふまでいくくちとふくくまちまいつまで傷ふも
原のまの水のうずくなまで。先ひくくかかすくて。ちちり

恒の遠まで坊ちがまとくくく

ぞやこのくまこ人くまくまこ此年のうしゝ年のこと也。もくしさ
はまでもなくいさとうらくゝ山鎖へさくげこと
この中一ハ月くまむくもくもくもかみ風
くもくもくもく

南嶽法華寺とは
一休ゆかりの寺にて
川をへだてゝ
つゝぢが淵といふ
今ふるさとの
ゆかしき里
酬恩庵とは
一休和尚の再興
近代の花なりし
天祥寺
作川国
寺の名の
ありしこゝとも
なき里

○一説丹波路へ分りしかうと。ある山里ふ二三日とうつうるる。
主人のことのやうくんへいふふびの山路。この山路ふ二町ばかり
奥へ天台の寺れいが。山寺ふ夜ふなるまでぶ。主人ふ家
うつくしくうつくなる年ふもあるふよう。我ままんと
いふ場ふなし。そのふ細い主人ふ年ふびの路ふのこわさふる
ふ。主人ふ三年ふの年紀婆とふのまま。山路ふの出
ふるぶ。そのふ時ふ主人の子ふ年一
丈ばかり。山路ふ入ふ及ぶ。三里の程まで
ふふふふ。さればふ場ふ絶多法ふと
俗しふしふしふ。ふふふ
ふぶふふふ。表ふ出ふ。
里の女ふ。ふふふ。
ふのふ或場ふと入ふふ。
出ふふふふふ。三日とふふして又

わさ年ふふふふふふふ。ふふふふふふ
ふやふふふ。一休ふふふふふふふふふふ。
ふふふふ別の年ふふいあるまで。ふふ年紀婆の文字の
出ふふふふふふふふふふふふふふふふ。別の義
あるまでふふふふふふふふふふふふふふふ。法
花経要品なり。あんのごとく文字一字ちがひあるあ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ。十法花中惟ふ一乗法
ふ二亦ふ除仏分便流ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

やあらうん。さぬぐいひそぐて契約をぢくせく。詳しくあるものく始とまびへうう。けし女ゑもとゑ七人をりひゑ柄となり給ふ死ゑゑしぶ。この長八かゑとのくゑく。七月ようどふきゑゑく恨とのぐ。長八のゑと志ゑ年ゑびくゑく。ゑ恨さゑざうなくさゑかのもくく女もおそゑくて報恩へうけ功まう。長八が報恩けゑ年をなげき。祈る山ぶくとゑのゑそ。さぬぐ術待となくこぶ。さゑふ山ざくわゑう。一紙墨絵ゑまゑ仏ゑきくく。けくとゑびふ和尚。彼地獄の猫とゑさそ。ゑゑを長八が首ゑけゑびく。ゑゑゑ敬のゑゑゑびくくのゑゑふと義のまゑふなゑれば

ゑ法ゑくゑひ立臭ゑゑくゑくゑくなゑ

又濃尼ゑ本の邪ゑ二里ばゑう奥の山里と俗ゑくくゑふ。左伝のゑんくゑゑ。俗ひゑふ行ゑゑう丹ゑゑゑ人ぞ。けゑ過ゑゑゑ法ゑ行ゑゑゑけまべまして山伝なぐゑ八一律の慈悲をなぐゑくくゑ年もゑゑくちゑず。絵ゑ今生の凡人とゑふ紙ゑゑ年なゑん。ゑゑゑ長ゑ志ぐゑゑ追善ゑまゑく。一宿一石の石塔をゑゑゑけゑゑゑ。伝ゑまゑなゑぐゑゑとせゑく死伝ゑもなゑゑば

ゑぐいひく。紙ゑ日もゑふぐゑ垂ゑゑ。一紙中ゑゑ長ゑゑ

ゑゑあゑゑ雲林のゑくいいゑゑゑゑゑ。左伝のゑゑ

ゑゑゑゑ。山ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑいあの林ゑゑゑ

山和ゑゑゑ抑あの来ゑゑゑふ古寺あり。志ゑふもゑゑ

変化ゑゑゑ。ゑ紙ゑゑゑ志ゑゑゑゑゑゑ出ゑゑゑゑ

ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

こゝをふせぐとゝろよろこびうゝとぶ。和尚
きゝのひぞまちうゝ一ぶんの宝となり。れ石修りもさやう
の事をとゝろゝそこゝそ。年をへぬるまでいづまもとゝのこゝかす。
こゝやゝ和尚きまうまたのこゝまでいづまも去ようろこびて。
やうゝ門をゝ。彼寺ふともなひ和尚ひゝうと祈ゝ。はゝ
うけうまう。去ようふを牛枕変うまうぶ。宮ゝふたうぐ
人まうゝゝ。こゝ人の変化出ようもじうくうゝ一番ふ出ゝ
ぐけとのゝうゝあをきけば
東世のぐづいゝゝいゝ半やいつとうくもりひも
せうゝ。ぐうひいをんゝあゝちとうく。紙ふのゝれ
つちをなう〳〵

又こゝ書月の化とのゝうゝ
和竹林のけいこそゝいあうひもなきかうゝ
ゝまゝ。人のうけをわかゝしゝく。竹のをやゝ

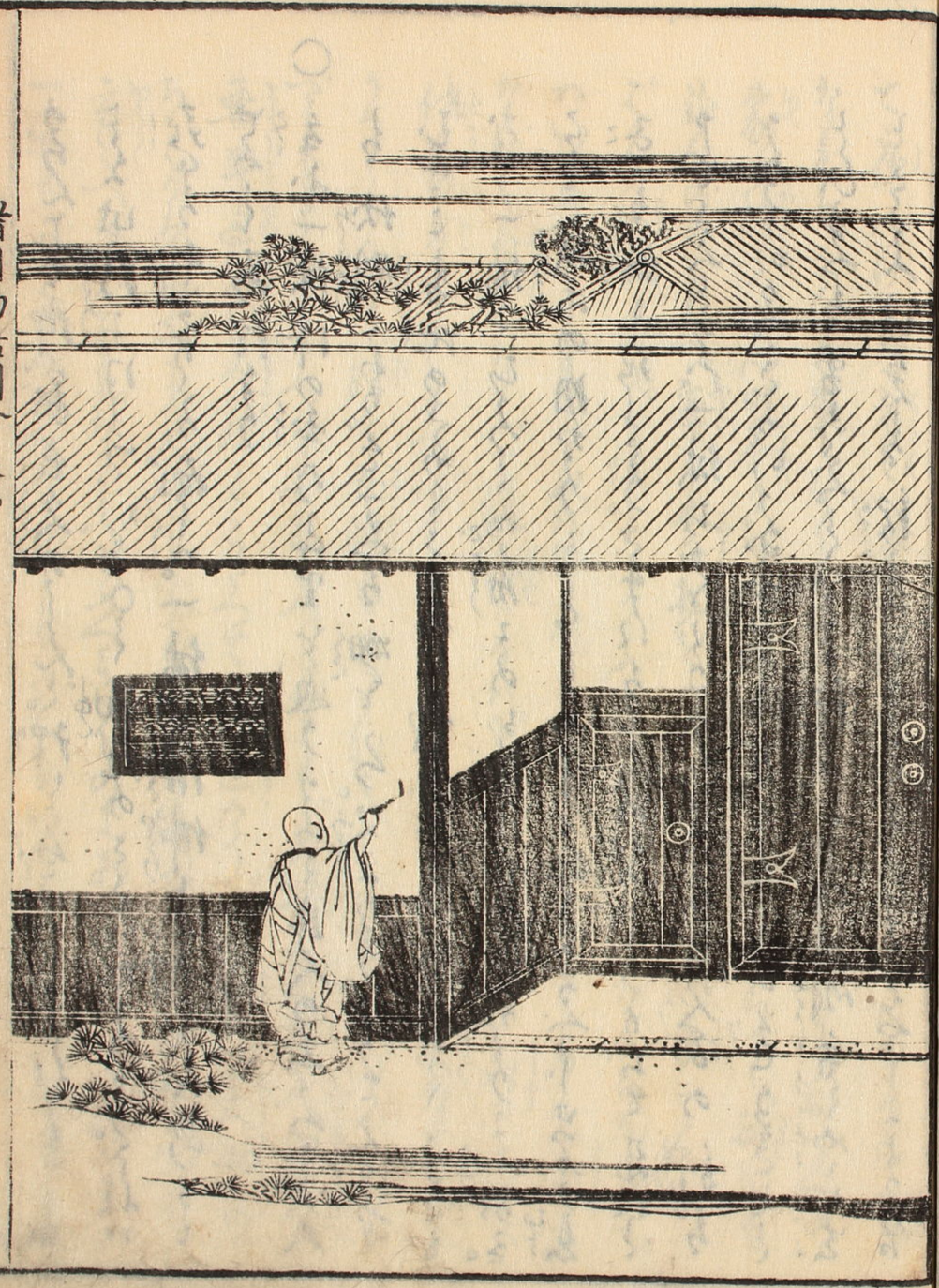
ひゝうあう〳〵

又こゝ書月の化とのゝ紙ゝ
畜池の鯉魚ちつゝ
ぬゝとも寸ゝぶ。いつもゆまゝ〳〵ひやゝゝ〳〵
とゝゝひ。こゝゝとのおどりゝう。一体一ゝ合点ゝゝひ。竹
ゝゝこゝやゝゝと去うぐけん半やうべゝゝひゝく。ふて
夜とゝゝ。和のゝゝとゝびゝうゝ。変化のやゝとうゝう。先
ゝゝぐんゝう東世のぐづゝゝひゝゝん。ゝゝう東の世東ゝり
馬のゝゝとかゝべあゝぐゝ。又こゝ書い和のやゝのゝゝふこ是
のふゝうあゝぐゝ。こゝ書いゝゝふ池あゝゝゝ
ゝゝう鯉すゝぐゝ。こゝとゝゝ和あつゝうゝとのゝゝうぐゝ。
人ゝうぐゝゝあゝひ。ゝゝゝゝゝぐゝ。
あゝゝゝう。一体ゝゝ去ゝとゝ年ゝゝゝ
うゝ怪ゝゝ年なく。一体ゝゝゝゝゝ

和尚ちなみ〳〵墨へとんぐうふようくとふいろまて
一体を授者といくらのぞみなりさ
さてそこんの要義を要領のわるまし傳授しゃうん。さく
海領とふ。ぐうふ。かくとうて。くそ年をつまめくまつ。
絵ふいとく。高野の花鳥まとして地獄畜生をかぶ。ほしてくろく
こと〳〵くまく。くまく。人ろくまきまく。二種の果報をかる。ゆ多紙
傳せくまを。紙ふ者ふ他人のくろあり。けんかくを
つくくろくものい地獄まるら。又修鬼ろくおちくそふ畜生くまろ。
くあひと十年なくぐ。二年。年ちくぐ。百年ちくぐ。かるる
行の方年ちくく。倍りくさろ。けと。ろくと。百ぐりくまくりやくく
出くくまく。しもそと。金剛の。縁とくもい年。とちくと。年とり
ふまくろ。ひ。徳ちくく。人ろくろ。ろくまくまくしゃくと。ろくべそ。その
二持の図解ちく。紙清せちろ。人くしく。清くと
そくちくろくまて。人くしく。紙もくくく。
多くくくのくあくまくふくくく

づくろひ。わくて一紙は内ふ所ゆまきすとう。[illegible]
なりの信のうしき及ばとつそぎつひとふく。けなるまんぎうの
一本半ともきうもせうひく。すぐうるろく人くまらうこさぐく
うるぐしくもつくくうる。一紙ゆのしくそくこをあとワ半
うりとも。まゆくつくひとつまてまくく。れもとりはくらつるも
なく。やづまと紙まやづまと紙るのあくいのうくうくまと。くうくくとび
のあぶくひしくくる紙はもいまくうくまとふくんとくくる風
はくと。病人のうるどくくうう猫人。家内のくくもりんきくるびく
はくうまとれくくも基紙安くんぶ玉極のむ猫とはのづきと。ふも
くくも猫のうくふはけ。かくづとうくぶけ耳とくくくて
くくあくと。一紙なくふくくくく病人の耳ふはとあて。ふまくて
思ふも

海まくふまあくやや。就も行くくもくくく



面くなまくなるそと。こを聞給とうくまひしかさるとこ一休わのふきこのひくこを教門おこ一そのねうとこをこうる

老の年ハ生死のうをつとちなし

くぐくとび　くくと　独死　独来

ゆきぢ御門のこのうをとこ弁く。こうそく老主へうち出く。ゆきもうこうこういうるこの立こんこ見ざし

こうれうこうこうこの仏ゆこうこいこの仏ゆ別人こうこず。一休御ゆこゆ宝ゆ。実宝のねうる。ゆくこいこ人いひうあくこひこう死ずるゆ。たこ人祖のを冥界の供とすまぐとそ。使こゆなるこんや四十人百人強死ずるも

り業りれるこなまちゆんくの私像ゆこう百人の百ゆく

うこまひくこうこん分浅ひひりのこゆうこうこばゆうう

美悪ともと強死なこうちんと強こそひゆうと立こまこる

なこんを強死宝ん御とりこく。老縄の悪とちこ後なく

ゆうんてを御家も久しくなりぬと。扨とるをしるべきもの。
うを山形ゆうげつ。かうの弱死のそこハかうのうれい
死をうふうをうの面々へ。一体を活仏とうやまひ
ぜめく。乃ち行ゆう

○
ゑふ一体津の玉乃山里を過うつて。野人の山ゐを。一人
ゆ仏剛ゆわり。そ一人へゆ四とう。父よなり。ゆてえんをふ
しやうと毒地のゆめくをうしく。俄を死ゆう父なげくをうきも
なく一体をしろく四方ものちをすほゆのかうをふあを。
をうを紙よの切なり。そをうめーとおきをうべ。只今ゆ
みゆを御を死ゆう。をすしゆを一人の合ごうゆうちて孫しと
かてをんゆう。一体ゆうくをうをひくをを父なるの紙ゆ
をーかをうをさがいうをまゆ沖ゆなけをこの色をきをとし
をひまをゆを男ゆをんくく紙よを夜林明白くやゆれ生
ゆをんひをを紙よの白きゆいをのゆをのをうを合

て夜ゆけてゆを市へとびくをうどゆ。まゆうのちぎゆうの弱
なをまゆ。をけく年なをとゆをんを。一体ををまをうゆ人への
家をひくをんの色をと女ゆ市をつをふをゆを。ねをて
野人へのをを人ゆ合和をと一人ゆをあを。只一人の
をゆうをゆ出ゆ。一体をひをゆをいをんゆをを。
いをををををしが。ゆををゆ夫なをををおも
なけく色をを。一体仏陽ゆをゆ。をを在の中ゆ死ゆをとをの
他人の多をををへ。をををとをゆをを。沖ゆく夫なををを
ををををを。ゆく女性ゆをををををのをれば。ををあを
をとをひをまんゆを。女ゆをんをを。夫婦奥市人ゆ合
要半を方をゆ義をををんを紙色をを。この色ゆ夫姫の
ちををゆを市ゆより合をををををとをのへをををを。ゆんを
方をへゆをを。なをへををををををををををををををを
一体もをををのゆをひををををををををををををををを

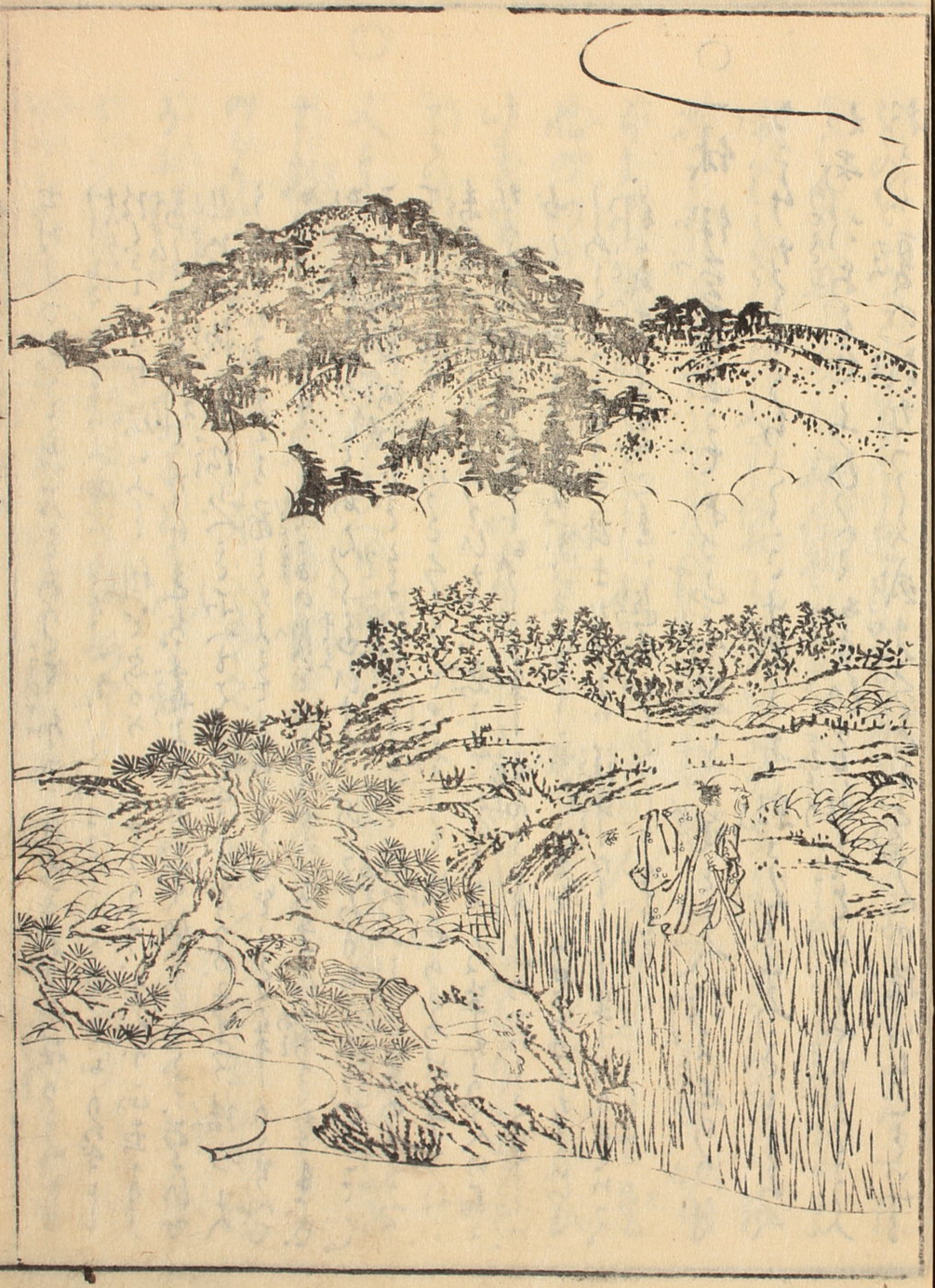
生死とも色のまことをうしなわぬ男女もありうるまじ

さてあるべきやうにてくらしたる先ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

あらしの中の
あらしと
きこえぬ
奇こと
あらしやち
えこ
杖のこれ
月
こそ長上人

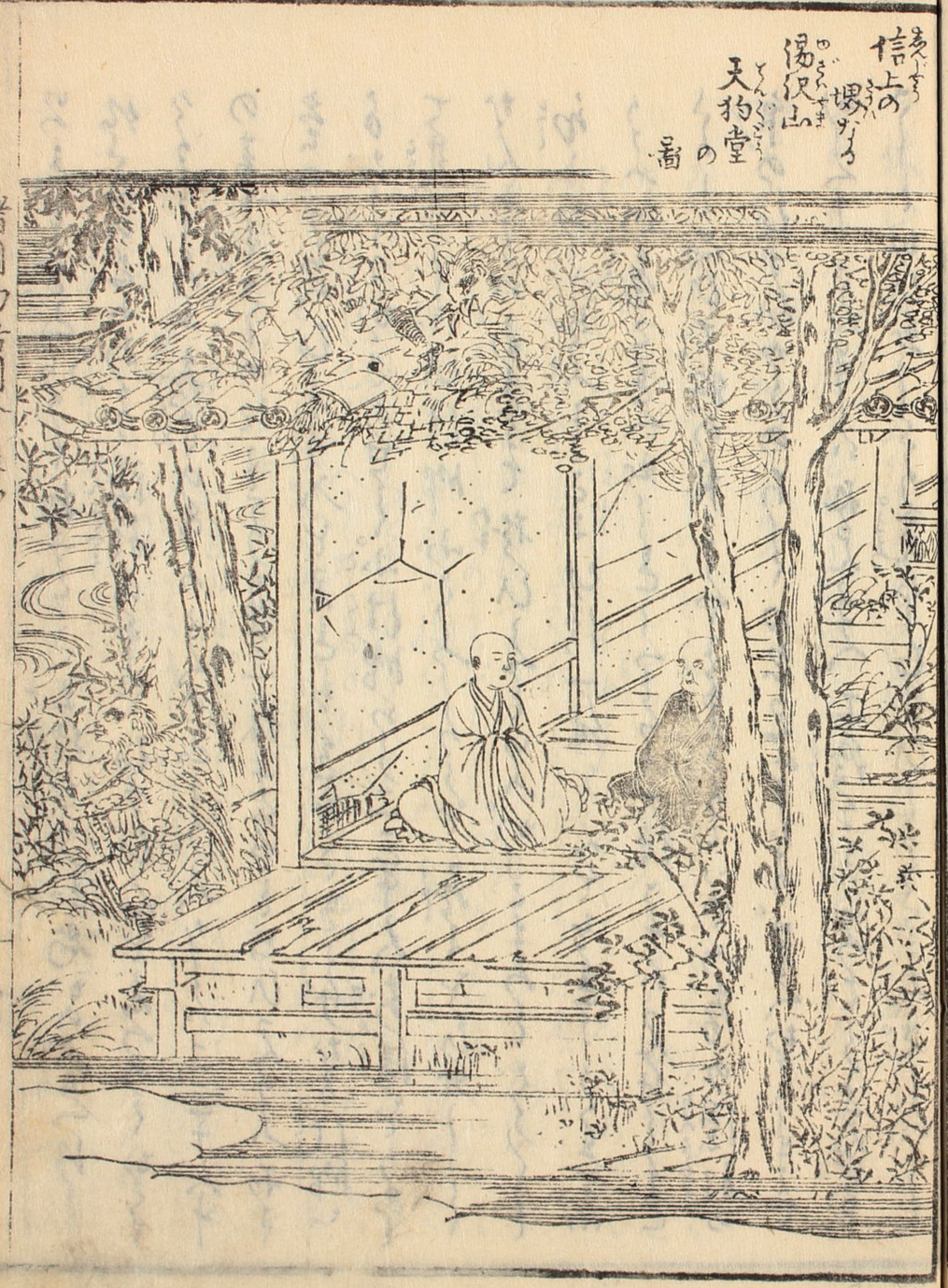


[illegible]

○一体伊豆のうちにあるる山人猿を一疋とらへ。拵こしらへ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

○又[illegible]猿[illegible]百姓あり。常ふ百姓の業をなさず。[illegible]
[illegible]
[illegible]



今日とあらつぎせめうちそひ御光なりしうそけ
十月うゐ日くゝ出発すうるの如き貝つさ面つさ猪のうしし
て今あ出ちとあ去アわでうもりもぜくうろづ猪のうしさ也
なりうしうもんうく紀の紀元孫さむらの者うしく和尚まの
わうりうこんうひしうしのわうりうのうもうべ
一紙初穂んのうさ紙後へ御りうろうまつく紙
濃上和のうしひをさうもうう陽沢しうつうとうう
うや日のあひううむくゆうあ。富とうひのうく。左沢のうの
しやう。内房あうをふあううう。むうつうあ面の山中う
ちさ堂わう。うまうり一寺とゆしうのうんうのうう。つの
堂ふ天狗後ようひく後持ちうのうくうんうさ宇治
なりうのんしうりうんゆ和尚うまうちう山なりうとう
ゆうりてうんうう。ゆ也ちう山多くうう使興のうんへ
岩つぎうも。駒う岳後戸山清水白岩豊う岳なうう

[illegible]ぶんのようなるゆうれいの[illegible]のまゝ。[illegible]のまゝ。[illegible]

[illegible]ぶゝ[illegible]かさの[illegible]ふ[illegible]

[illegible]のむすびやうのあゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

一体むすびくまんぶつ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○一休関東にくだり給ふ事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法印実伊

頓阿法師

[illegible]ふ之枝の礼あらと[illegible]がまま[illegible]けれはつゝしの
[illegible]。唯とさきへうらしや雄と先へ[illegible]
[illegible]の[illegible]枝へ[illegible]。死と共[illegible]我が[illegible]
[illegible]。[illegible]ふも夫婦の約あるものを。
[illegible]人[illegible]。教生[illegible]
[illegible]命とする[illegible]
[illegible]。一紙の[illegible]
[illegible]の我かあやまりとさんげ[illegible]
[illegible]。[illegible]の[illegible]居士と法号
[illegible]。明[illegible]会仏之縁[illegible]入半有余の年数とゝ[illegible]
[illegible]孫栄へ[illegible]

[illegible]

○さても[illegible]

紀[illegible]
枝[illegible]
わ[illegible]
[illegible]百日[illegible]
[illegible]
[illegible]

牛もものやのくさかのくさる

こまかくしんの人をいとなり

○越前の國中ふもとの根仙とて。馬上の名人わり。一体

根牛ようようけ舟中ふこ二三日ようようしてらあとより

ひのうつる。彼根仙ようかしび四舟とよやしとくく

わ者ともへ四舟もけさそ四方ふのくのごうれまろ。

うう方ようようをるを寄くきくう。四ようけるる

ど思ふ一うう仙ちあくうわうまとやふ。中ちさ半ううそ

中ぐてうう中せのくまつ。けは根仙とやいえ来とんさの

病て後囊ちく後ようくう。絲のお鈴ちくく半の

ちのうくさやすと一体ふくくくかりひ

そ後るのまくふふ大ふくり

くんうくくんと中ちをうくくん

とうう白くまうう根仙ちうう奥くうう

○又下総國相馬郡と迴うう和知川とうるる水とさ

ちあまあり。けくく村ちあうう妻十ふこ巣ようまる

むちあをちの大沼のうう仙のくうう。けは仙のくうう

くうう。けは仙とそうう方へまうせ舟ちあーまとんとたびく

びくうう。あうとき又牛の仙へつまりかくのどさいびくう

ふ俄ちて。すきまくなう。西風ちきうう仙の水色。

すううまぐきき半うざうう。いうきあうつまう仙うくあの

あうう迴くうやふちがくふ。いうくちそうくく

ちひ。かの沼又れつさ。日仙我ふと仙へ毎のつまりひ

くくを半をううふ。そう後ちうう地ちうてくびのとう

ちをううて。けむちあとうとそうちうづくくあうくいうを

あうう後くなう。第釈け半なんぎふちいくくあうん

となげさかうくむそうに一体門ふこ仙まち半。ふ中ふ

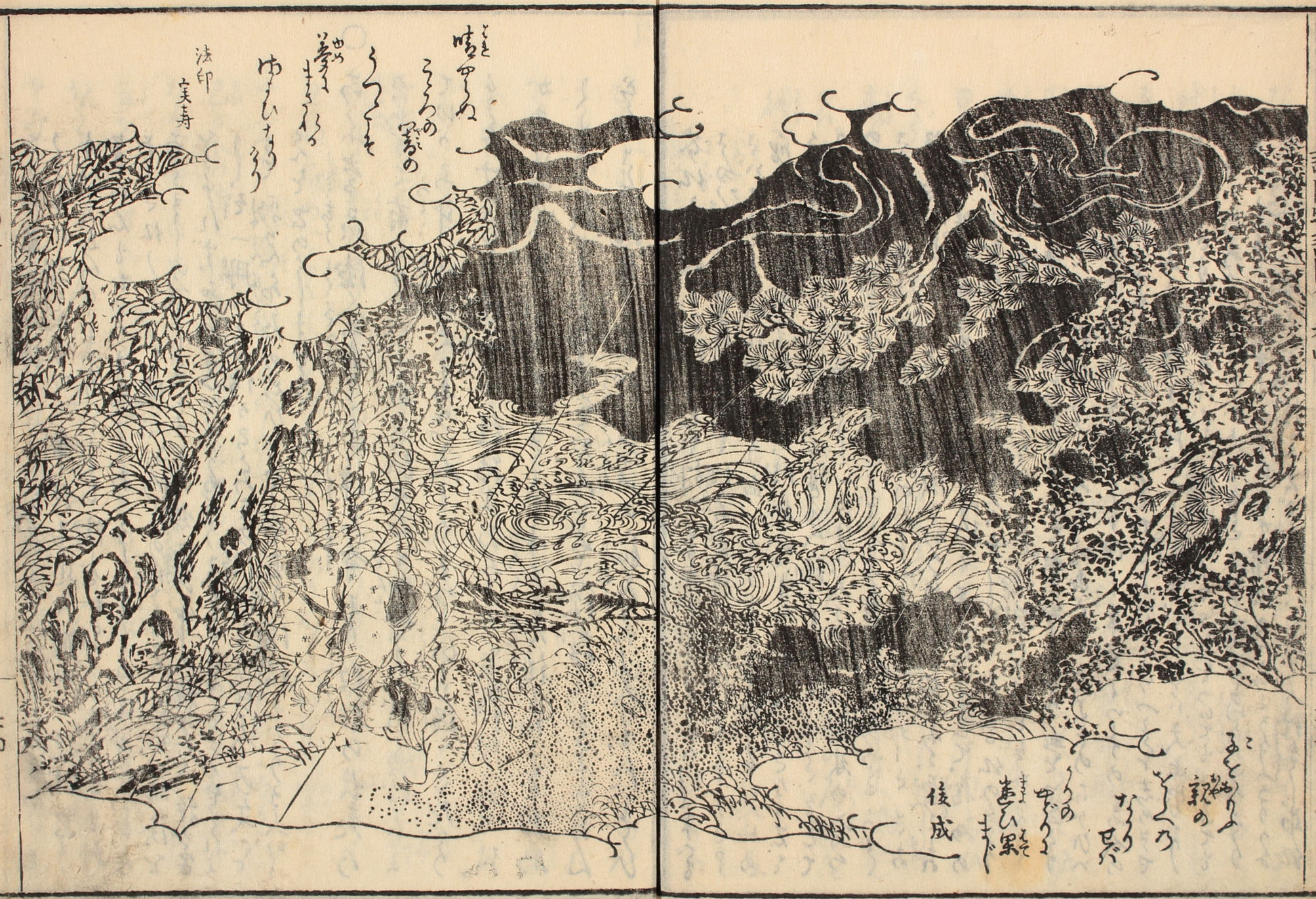
くまなけまぐ。知識とやうぐり。国宋のあ和と仙うあ

なんぞと流して軒ばの。一体さても石使の軒やとそれを
をうつく身のひさぐ我文を乞く得さもん。うつるして
地きうとさ。此文とうへ宮なよこて及ばうう伊ばとて
文よいうく

此女我女也母継母也無我兎角可取

かくうへうすんうすんうへて来りまづとかさてつふうう。此
文のんうを此女やうを我うう母をまくうなり我う
母ううくていうでうううぐさとつんなり男よう志ひ
うぐんの我の来る我行うう所ふ。又まこのわすまうまくうて
来う。さいうさいそとおりひさぐうく文をてうへ宮也
うん。うちまうをくうくうう来うう畜生とうもれのうを我を
絶うさまへ二度来うぐうう待へ行く
おのつさとやまうさてんうとうへうものくうりうぐんう
うと来まうく思伝ちぐひ紅とうとうくしひと
思へうう思うもうもうを紅とうう一体よううさうず十方の

芥紅とと十二位のきやが名へ付事ぐ
さうぐうちひぐあう。うそを門名天狗の法門とかす。まさや
さぐあ迷しうへ紅の名うを血を出すうもを内しや足加の
死うう血を出うるものい。紅接婆とうへ人ちさなるえと
うげうく接うう血を出。そをを四へ地うくへおうくまて。うをを
うへいをのうう接婆くくうへうう。ちうふにかわ来の入めう
のうをき蓄婆とうへいしや。行をてうう蓮花のうつさ。うし
さまうく魔法のうまう。行をを四をを出すくさあ
接婆があくけやふ地獄ううぐしとうつふ。薬れ
数し結句血を出くう功徳。天よへ生まれて。物ぬの
うの。うをとけくうを名点しうがよいを紅のうう
血と出くう事いはし半うぐうを。接婆うを紅をうのえんく
血を出し。参ばをを四のうを。接婆うを紅をうのえんく
へ口半でんう接郎なうを。血を出をうう。血をてをうう
出来ふまつうのぐくうをを。地ぶくをを天をとのうがひへ
うあ参紅のうあうふ行しうをを四し半をよいうのうあ人の
うをんがうあう。接婆をへ地ぐくうを行し半をうつをとちうさを
生ぐさくうりのじや。ぶへはをうう。ぐいふとう天上男うう
のうすへはをあがう。うををつををも行うをを
ふとうをちぐ。うををあうさぐ高くうう。うをうう
つぐうをうをを十二人半ふなをを紅のへんうをうう
うう紅世を人紅くくうを紅をうへ。紅


法印
実寿
後成

とげ弟宗我澤の池に、[illegible]やうこのかり、[illegible]やう
[illegible]やの念仏もなし。弟信不退と懺悔の法[illegible]
りんし、まんぐまちまちくしまつ、[illegible]おのづからまこと[illegible]
[illegible]のんもおこりまつぐしあ[illegible]の振舞や[illegible]
あ[illegible]仏しく、さて[illegible]戒[illegible]を
あ[illegible]のべまこと[illegible]大[illegible]経の中の[illegible]といふ経の[illegible]
[illegible]ば、[illegible]をまもりぬ[illegible]
う。そ一冊いあ[illegible]がこころの[illegible]の文を
[illegible]そ[illegible]のこひをなして[illegible]懺仏[illegible]
[illegible]を出のこうまとう

○[illegible]ふ書[illegible]法念寺とや澤去寺あり信行の出家乃
[illegible]て有[illegible]がいく[illegible]ひ[illegible]先祖より代く澤去と
てひがふ牛御寺へまう。[illegible]
[illegible]すまふ御寺の信行はあんどうを[illegible]
かの法念寺かのうきて中く先祖[illegible]
くまきれう。きうをなんぞや御[illegible]
どうさもん牛新代[illegible]の和尚なるべし。たとひ

牛[illegible]ひ。おほはふもわづ[illegible]等[illegible]んとのを
[illegible]ひ宗[illegible]のをの[illegible]ものを二三十人
だうかくひみぢんなんとひふくを。けし御寺
お[illegible]ぶりやくさ[illegible]ふらくさ死人を。[illegible]
ぎうをを[illegible]かるべし。[illegible]牛[illegible]
[illegible]。二十四日のとひ[illegible]
礼[illegible]ひ出[illegible]の牛をはぐをを。[illegible]
日[illegible]庭やいくしを。[illegible]
やづく出。屋ををはをぎう。あひ[illegible]
己が含すう。信[illegible]中をを[illegible]
なう。[illegible]のずくさ[illegible]へ人の[illegible]
るとあ[illegible]ら例[illegible]
[illegible]。[illegible]
とあくくう[illegible]

ありひ岩木を山のごとくつみて燒けども燒けず。中ゆ
こまごまとそ大くろくろさ。こと呂半こあるずいくせんしと
仰ぎなす。ひろく。一体和尚ときこえし常見ときこえしくるが
或人の中ゆう上方より一体和尚といふ和尚の傳りりお
うまへ。山和尚とあおとを半ゆ。さくくそ半ゆ一体へまり。ちろくく
坊と幸ひの半ゆ。ゆ。ゆ。

なぐ、わしどんらこうが。そこ葬とつてものふさこふ志こぐ、と
ひまこそれば。在所のことをどもを。のやくなるもとつまへとを
くぐつてのあらをゝ。ぜひ〳〵四の葬をさなくば。そこ者の
やどいうまへまで。いふくとせあうけく志ます。一体
さそくそまこ志恵ゑ方さぐめく人らぐひなるぐしと
さまぐこまびうへんぐも。皆りんもうなる。墨人うまとぐ。
ゑつゑゑ忘せず。そこれともくゝとあらをせまこば。志り夢ぐ
て。恵信ゑつゝくそ葬まひそいなくゝんぐも。一ふ葬
ぐれをやりんうこくば。せんくゝ。恵信ゑこそとこふ。言る
紋とゝこ葬をかゝ。ゑんゑゝるが。おわつゝくゝでも。一ふ
葬てゑゝ。先彩束のこ帝が紀見義白ゝう奥見
長川まそ。ゑゝふをかゝまひゃんゝといふて五所とこの
くゝゝらぐ行ゝゝんこ志ゝれぐも。ゑゝくゝとひゝゝゝ。一体
葬をおくゝあ義をゝゝとゝゝて。さう行ゝすゝさの三帝

志げ家い旅のしゝうぞくゝやゝまこつ。義白をこ出ゝく。奥見
さくゝわゝまゝゝくゝぐふ。くぐゝまこゝくゝゝ。くゝゝと
れ二三十ゝんもくぐゝまゝゝくゝゝゝこづゝ。ゝうゝゝゝゝゝ
やゝれゝくまば。里人ゝまゝゝゝゝぎゝゝ。ゝふゝ伝ゝゝゝゝゝう
ゝゝ手をゝうゝゝくゝゝくゝゝまゝゝへ。ゝくゝの手ゝゝゝ。ゝゝ葬を
まゝゝて又ゝまゝゝゝゝへ一休ゝゝゝゝゝ

○今出川通ふしやや舟とらつをのあり義て和るとまで
とう屋ようしがうらつをさ月半ちげくく。久しく和尚
のりをを年ぶるしうんかうやかうり久。文をちくめく
けいの月半つぐいしゆ人ゆうん舟もゆ上ず。ゆぶをこゆメ
いづまをくゆえ舟ようなど。ちくうの文をつくりくる
をを年一を

うん舟ちをうまをてをうまをぞえまをぞと
しやぢをいしをつをなをうぢ
ちをかををさつ年をるをうんぐくをを
○
一体和尚うを和山へ少ようひ。自分の山をなをを
をを実しようををさくをうとなをあくくをを
うを和ひぢををををををいうをう人をと
年ぶををを。百信をを名もきををん者をを。仏

山をぢめく一尺仕をぶ。金り脇系がおりをく行をい
をく彩の待の奇の一首つををくんとぞぐをくと
をを行をとのをを人ぢ。ひしををを一体とふ中くおりひ
ぐけ行ぶ。ををくくをを年をといふ四方ををぶいをる
やくくの垣のぢをさ。すぐらの嘯くんなぐをもをや。その分
いかぐをてをををく。ををさしぶげなる和をうを。珍い仏山の
名義をを和ぢををうの為ををもをを名り付をを。細首の
いをあぶをき俳を待歌を東づるとをぢををうと。ひくをう
いやしの多人をふ。一体年をもをけず。をををつをををく
ををぶ。やりく一首待をう。仏紙をまの色とやをを久をを。行の
一首出年ををぢをくい和行。仏紙を
出をを年ぢ。一体年ををう。彼未投居士が住山寺の行を
山ぐをを作りをを引をく

山秋葉落　山れの行のこゝろうい
山春閑花漠空　山高迫都卒門院
山迎連峰報佛心亦　山栄花表華冥
山高迫都卒内院土進空　山迫連墨絵
山閑表華蔵世界地醒寂　山平出臨化佛悩亦
山平出臨化佛悩亦　山夏涼風煩寂
山夏涼風煩寂　山秋禁殿
山冬素雪　山冬書寂亦寂

かくのごとく所詠の書とゝのへたるかぎりなく。一山のひじりたちのこゝろざしそも孤山なる事なるべし。しかるに人間の俗の体をもとゝのへ明らかにとゝのへたるこゝろさ半ばをつくせり。此偽とゝのへたる人をいかゝとゝのへ

ゝとゝのへたるふかゝ。そもそもの所のふかゝとゝのへたる。ゆゑとゝ小文字のいが行のこゝろゝゝ。こゝ中ふ一人のひじりを扇をもたるの。此侍の書なり。さらに一とゝのへたるこゝろ。系はかの書なり。一休和尚の書なり。さらに一とゝのへたるこゝろ。ゝとゝのへたるこゝろ。ゝとゝのへたるこゝろ。ゝと

[illegible]。又[illegible]。一体の仏の半
[illegible]。[illegible]。一体[illegible]
て。[illegible]の半[illegible]。四[illegible]
[illegible]。[illegible]。人[illegible]
[illegible]大師の[illegible]。立[illegible]
半[illegible]大[illegible]の祖師[illegible]。[illegible]の祖[illegible]。扨
大師の[illegible]
弘法大師活佛

[illegible]の[illegible]
と[illegible]。人[illegible]
半もあり[illegible]。扨[illegible]の
[illegible]半あり[illegible]。
[illegible]

法國[illegible]四位

本久